

かの如く逆用して小作米のツリアゲ土地の強制引上、賣逃げ若くは小作契約を調停によつて決める等——小作米の搾取を増大し自己の安適なる生活方法を購じて小作人を飢餓と死の淵に縛りつける地主の逆襲的——態度が露骨となつてきた。斯くの如く貧農小作人の生活は製作滿作にかかわらず一年一年と貧困化し地主の攻撃は露骨に加へられて更に小作人の生活窮乏に拍車をかけてゐる時——浮羽郡を中心とする日本農民組合同盟（稻富稔人一派）は皇道會と提携して貧農小作人の憤激闘争を抑へつけて地主資本家の利益に奉仕する役割を完全に遂行した。また却つて八幡支部組合員であつた平田稔香は昨年二月十一日皇國青年同盟なる反動團體を結成して労働者農民の闘争にアタマデ對抗する等——と宣言し當時久留米四十八聯隊滿井少佐のフアツシヨ宣傳をなした（而し發會式三日後

には跡形もなくツブレた）

其の他在郷軍人を主体とする護國軍團は小倉、八幡、福岡、久留米、大牟田の各都市に結成され大牟田市護國軍團は三井購買會に對して僅かばかりの闘争を敢行したのであるが軍部支配階級の支持をもつ團體にかかわらず發展性が無いのは大衆の眞の利益の爲めに確固たる政策を有つものでなくまた眞に勤勞大衆の利益の爲めに闘ひ得るものでないからである。以上の如く地主の攻撃はフアツシヨの擡頭と共に勢力を益して來た縣下に於ける吾福佐聯合會の現勢は何うであるか、昨年二月の暴壓にもかかわらず組合員の實數は壹千五百組合員と稱し居る者をも併すれば四千以上に及び組織範圍は、北九州、筑豊、京築、福岡、早良、糸島、筑紫、朝倉、三井、南筑、三養基の十一地區に亘り昭和七、八年共に小作米減免は